

A0103-01	<b>緊急時でも、在り合わせの工具を用いるな</b>		
本文	不適切な工具を使うと思わぬ事故となる。緊急時においても、あり合わせの工具を用いないこと。		
リスクの種類	機器破損	関連目次・章節	
理由(何故)	その機器に対し不適切な工具を用いると、機器の破損を招くことがある。例えば能力の大きすぎる工具では過大な力が掛かり、機器を破損させる。		
方策	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) その機器に対し適切な工具を用いる。</li> <li>2) バルブ開閉ハンドルは原則として直接手で操作する。直接手で操作することが困難な場合は、当該バルブの材質や大きさなどに対して適切な長さのハンドル廻しまたはトルクレンチで操作する。その場合も制限トルクを超えるような過大な力をくわえないこと。</li> <li>3) 必要な工具が常時適切な状態にあるように維持管理すること。</li> <li>4) 緊急時に備え、機器に合った適切な工具を置き、且つ置き場所を明示して保管する。</li> <li>5) 作業標準・機器取り扱い管理基準の見直しと再教育をする。</li> </ol>		
事故例	バルブハンドルとステムを固定するロックボルトが緩んでいてハンドルが空回りした。ロックボルトを締め付ける六角ナットが見つからず、作業時間が迫っていたため、その場にあったパイプレンチで直接ステムを掴みバルブをあげたらグランドナットが外れて、エチレンガスが噴出した。(JST失敗知識データベース)		
法的参考事項			
備考			

バルブの構造例

